**目次**

[はじめに 2](#_Toc67789341)

[1．先行研究の検討 5](#_Toc67789342)

[2．資料と方法 13](#_Toc67789343)

[2.1．資料 13](#_Toc67789344)

[2.2．方法 16](#_Toc67789345)

[3．分析と考察 17](#_Toc67789346)

[3.1．レジスターに基づく分析 17](#_Toc67789347)

[3.2．共起する名詞 17](#_Toc67789348)

[3.2.1.「名詞　が　かたい」の形式 17](#_Toc67789349)

[3.2.2.「かたい　名詞」の形式 18](#_Toc67789350)

[3.3．共起する動詞 18](#_Toc67789351)

[3.3.1.「かたく　動詞」の形式 18](#_Toc67789352)

[4．結論 19](#_Toc67789353)

[参考文献・資料 20](#_Toc67789354)

[付録 22](#_Toc67789355)

# はじめに

　近年、ベトナムと日本の関係は、文化の面でも経済の面でも深まっている。文化の面では、2018年の日越外交関係樹立45周年で、ハノイ・日本文化交流祭や日越音楽祭などの多くの事業がおこなわれた。2016年9月には日越大学修士コースが開設された。日本の大学もベトナムでの拠点を設立し、2014年には41件である。スポーツについても、2014年に本サッカー協会（JFA）と越サッカー連盟（JFF）のパートナーシップ関係を締結した。経済の面では、2017年末時点での累計投資認可額は495億ドルで、4年ぶりに金額1位である。また、2017年の貿易は中国、アメリカ、韓国に次いで第4位の334億ドルの輸出入金額である[[1]](#footnote-1)。

　両国の関係が深まるにつれ、日本で暮らすベトナム人の数は増えてきている。独立行政法人日本学生支援機構[[2]](#footnote-2)によると、2017年末には、日本に居住するベトナム人は約33万人、そのうち、留学生数は約8.1万人であり、76万人の中国人と45万人の韓国人に次いでいる[[3]](#footnote-3)。また、2019年度にはベトナム人留学生が73.389人であり、去年度に比べて、1035人増えた[[4]](#footnote-4)。

　そして、日本語を勉強するベトナム人の数も増えてきている。日本国際交流基金によると、2012年にはベトナム人日本語学習者は46.762人であり、2015年には64.863人で8位である[[5]](#footnote-5)。そして、2018年にはこの人数は174.521人であり、圧倒的に昨年の169.1%まで増え、6位に上った[[6]](#footnote-6)。

　日本語を勉強するベトナム人にとって、一番難しいのは漢字である。日本語学力テスト「NAT-TEST」では、１級は約1.850字を検定している[[7]](#footnote-7)。日本漢字能力検定では、2級で約2.136字、さらに1級で約6.000字まで検定している[[8]](#footnote-8)。

　大量の漢字を覚えるのが大変だが、漢字の表記もベトナム人にとっては悩ましい問題である。たとえとして、辞書で「アヤマル」を調べてみると、同じ読みで漢字が違う「誤る」と「謝る」が立項されている。このような問題は、一般的に「異字同訓」と呼ばれる。

　まずは、異字同訓の定義を確認する。

　沖森は、異字同訓について、「字義が相異なり、その用法も相違する漢字が訓を同じくする場合を『異字同訓』と呼ぶ」（沖森　2014、p.9）と述べている。同時に、異字同訓として扱われない例外も挙げている。

（A）品詞が違う場合  
（B）同じ品詞でも、意味が異なる場合  
（C）同じ品詞でも、語の性質が異なる場合

（沖森　2014、p.10-12）

　つまり、以上の例外は異字同訓ではないということである。

　また、沖森は書き分けの問題については、「使い分けに一定の指針が求められる」（沖森　2014、p.13）と述べ、つまり異字同訓には書き分けの問題があるということである。

　山田は、異字同訓の問題について、「字形」、「音形」、「意味」の3項目の関係として整理している。すなわち字形が異なり音形が同じで意味が類似している語が異字同訓として書き分けの問題があるのである（山田　2014、p.14-15）。そして、例として山田は［作る／造る］、［長い／永い］を挙げている。一方で山田は、字形が異なり音形が同じで意味が非類似している語が「異字同音異義」であり（山田　2014、p.14)、つまり異字同訓ではないのである。

　したがって、本論文では、異字同訓の書き分けの問題を解決するため研究を行う。

　しかし、異字同訓は、語の認定の問題に関連し、単純ではない。語の認定の問題は、語の長さと語の幅の問題である。語の長さの問題とは、日本語では分かち書きをしないため、何が1つの語か、どこで区切りをするのかは明確ではないということである。一方、語の幅の問題とは。。。。。こうして、異字同訓は語の幅に関連りている。つまり、異字同訓は多義語にかかわる現象と考えられるし、一方で類義語にかかわる現象とも考えられる。

　異字同訓は多義語にかかわる現象と考える場合とは、［作る／造る］、［長い／永い］のような、字形が異なり、音形が同じくして意味が類似している「異字同音類義」の語は一つの多義語と考えるということである（山田　2014、p.14）。逆に、異字同訓は類義語にかかわる現象と考える場合とは、表記が異なる別の語と考えるということである。実際に辞書の見出しを見てみると、『。。。辞典』には「暑い」と「熱い」は別に立項されている。つまり、『。。。辞典』は「暑い」と「熱い」は別の語として見なしているということである。しかし、この場合は「暑い」と「熱い」の意味が類似している。

*引用。。。。*

　「暑い」と「熱い」は、「。。。」という点において意味が共通しているが、一方で使用対象という点において意味が異なっている。つまり意味の大部分が同じであるが、実の細かいところが異なっており、「暑い」と「熱い」は類義語の関係にあると言えるのである。

　先ほど確認した通り、沖森は異字同訓の定義を上げる同時に3個の例外も挙げているため、検討しにくくなっている。したがって本論文では、山田の定義に従い、異字同訓を多義語の意味に応じた書き分けの問題として考えて論を進める。

　本論文は、主に4章にわたって論を進める。

　第1章では、先行研究として、各辞書の「かたい」の解説を検討し、問題点を指摘する。

　第2章では、資料を取集し、研究対象を決め、研究方法を述べる。

　第3章では、前編では「かたい」が使用される場面を分析し、使用傾向を考察する。後編では「かたい」と共起する名詞・動詞を分析し、共起する名詞・動詞の種類を考察する。

　第4章では、第3章で行った分析・考察に基づき、異字同訓として「固い」「硬い」「堅い」の使い分け問題を解説する提案を挙げる。そして今後の課題として、適切ではない部分を指摘する。

　「固い」「硬い」「堅い」が使用される場面や共起する動詞・名詞を分析することを通じて、「固い」「硬い」「堅い」が異字同訓としての使い分けを明らかにし、日本語学習者が「固い」「硬い」「堅い」の使い分けを理解できるように目指したい。

# 1．先行研究の検討

2014年に『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』が文化審議会国語文学会により発表された。『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』の前書きには以下のように記述されている。

同訓の漢字の使い分けに関しては、明確に使い分けを示すことが難しいところがあることや、使い分けに関わる年代差、個人差に加え、各分野における表記習慣の違い等もあることから、ここに示す使い分け例は、一つの参考として提示するものである。したがって、ここに示した使い分けとは異なる使い分けを否定する趣旨で示すものではない。また、この使い分け例は、必要に応じて、仮名で表記することを妨げるものでもない。

（文化審議会国語文学会　2014、p.2）

　つまり、報告に示された「使い分け例は、一つの参考」であって、強制力をもった規則ではないということである。これは「仮名で表記することを妨げるものでもない」と書かれていることにも通じている[[9]](#footnote-9)。

　『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』には、通用漢字表[[10]](#footnote-10)に示された同訓の漢字133組が上げられいる。例えば、「あし【足】・【脚】」や「きく【聞く】・【聴く】」などである。ただし、同訓の漢字であっても、通用漢字表に入っていない字は使い分け例表に含まれていない。

　まずは、『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』の記述を確認する。『「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）』には、以下のように説明を書かれている。

かたい  
【堅い】中身が詰まっていて強い。確かである。  
堅い材木。堅い守り。手堅い商売。合格は堅い。口が堅い。堅苦しい。  
【固い】結び付きが強い。揺るがない。  
団結が固い。固い友情。固い決意。固く信じる。頭が固い。  
【硬い】（⇔軟らかい）。外力に強い。こわばっている。  
硬い石。硬い殻を割る。硬い表現。表情が硬い。選手が緊張で硬くなっている。

（文化審議会国語文学会　2014、p.12）[[11]](#footnote-11)

　『三省堂現代新国語辞典　第十刷発行』には「かたい」は以下のように記述されている。『三省堂現代新国語辞典』には「固い」、「硬い」と「堅い」は別の語として扱われ別に立項されている。

かた・い  
【固い】〈形〉  
①（水分が少なく）中身がしまっていて、形がかんたんには変わらない。  
「―餅・粉を固く練る」  
⇔柔らかい  
②しっかりしていて、かんたんにはくずれない。  
「―団結・―約束」  
⇔もろい  
③気持ちがしっかりしていて変わらない。  
「決意が―・固く信じる」  
④すきまがなくて、かんたんには動かない（・ほどけない）。  
「障子が―・―結び目」  
⑤しっかり力がこもっている。  
「固くだきしめる・―握手」  
⑥きびしい。  
「固いましめる」  
⑦たしかだ。まちがいない。  
「合格は―」  
⑧融通がきかない。がんこだ。  
「頭が―」  
固くなる：緊張しすぎて身体や気持ちがこわばる。「あまり―な」  
【硬い】〈形〉  
①［金属・石などについて］力を加えても、まがったりへこんだりしない。  
「―宝石」  
②よく練れていない。  
「―表現」  
③こわばっている。  
「表情が―」  
⇔軟らかい・柔らかい  
【堅い】〈形〉  
①［材木などについて］力を加えても、まがったりへこんだりしない。  
「―材質」  
⇔柔らかい  
②守りがしっかりしている。  
「城の守りが―」  
⇔もろい  
③手がたい。堅実だ。  
「―商売」  
④ましがないくて信用できる。  
「―店」  
⑤まじめて、義理がたい。  
「―人間」  
⑥かたくるしい。  
「―話・―ことばかり言う・堅く考えなくてよい」

（市川　孝　2001、p.203）

　つまり、「固い」には8個の意味があり、「硬い」には3個の意味があり、「堅い」には6個の意味があるということである。詳細に意味が分類されているが、代表的な意味が分かりにくく、日本語学習者にとって使いにくい。また、意味が重複している部分があるように見えるのである。

　『角川必携国語辞典　初版発行』には「かたい」は以下のように記述されている。

かた・い  
「一」【固い】〈形〉  
　①物をぶつけてもたやすくこわれない  
　「―石」  
　②ことがらや状態が簡単には変わらない。強く厳しい。  
　「―決意」「―団結」「―友情」「固く信じる」「固く禁ずる」「頭が―」  
「二」【堅い】〈形〉  
　ものごとの性質がしっかりしている。確実で信用できる。  
　「身持ちが―」「合格は―」「口が―」「―話」  
　⇔柔らかい  
▶「一」と「二」の漢字の使い分けは明確ではない  
「三」【硬い】〈形〉  
ものの性質や心情などがこわばっているようす。ゆとりやおもしろみなどがない。  
「表情―」「態度―」「―文章」  
⇔軟らかい

（大野　晋、田中　章夫　1995、p.237）

　『三省堂現代新国語辞典』と同じく、『角川必携国語辞典』にも「固い」、「硬い」と「堅い」は別の語として見なされている。「『一』と『二』の漢字の使い分けは明確ではない」（大野　晋、田中　章夫　1995、p.237）と記述されているが、このような記述が辞書の利用者、つまり日本語学習者にとって何も役に立たなくなるのである。

　『学研 現代新国語辞典　改訂第三版』には「かたい」は以下のように記述されている。

かた・い【堅い・固い・硬い】《形》  
①物が、力を加えられても容易に形をかえない性質である。質が強くじょうぶである。  
「―・い気の実」「―・い鉄の箱」  
［参考］音・声などが重く強い意にも使う。  
「金属と石のぶつかる―・い音」  
⇔やわらかい  
②きっちりとしていて、すきまがない。堅固である。  
「唇を―・く閉じる」「守りが―・い」  
③動作・顔つきなどに柔らかみがない。こわばっている。  
「―・くなって返事をする」  
④心の状態や言行が容易に変わらない。  
「―・く決心する」「―・い約束」  
⑤身持ちがたしかである。実直である。  
「身を―・く守る」  
⑥がんこで融通がきかない。かたくなである。  
「頭が―・い」  
⑦物事が確実である。堅実である。  
「合格は―・い」「―・い商売」  
⑧厳格である。きびしい。〔副詞的に使う〕  
「―・くお断りいたします」  
⑨ふざけたところがない。まじめである。  
「―・い本を読む」  
⇔やわらかい  
文：かた・し《く》  
【使い分け】  
『堅い』  
〔質がしまって割れにくく、折れにくい。堅実。確実〕  
堅い材木・堅いつぼみ・堅焼き。音意志が堅い・口が堅い・義理堅い・優勝は堅い・手堅く得点する  
『固い』  
〔城壁を守るように、外から侵すことのできぬほど強くかたい〕  
地盤が固い・固く団結する・固く辞退する・口を固く閉さす・守りが固（堅）い・決意が固い・固い握手・頭が固い  
『硬い』  
〔「軟」の対。石のように、たやすく砕けたり裂けたりしない〕  
硬い玉・硬い髪・表情［態度］が硬い・体［皮肩］が硬い・硬さがほぐれる・硬い文章・話が硬い

（金田一　春彦　2002、p.224）

　『学研現代新国語辞典』では「固い」、「硬い」と「堅い」は1つの語として見なされ記述されている。

以上述べた通り、山田によると異字同音類義語、いわば異字同訓には書きわけの問題があるため、金田一はその3つの表記の使い分けをして述べている。

　『デジタル大辞泉』には、「かたい」は以下のように記述されている。

かた・い【堅い】  
①外力に対する抵抗力が大きく、容易に形を崩さない。  
　「―・い殻を割る」  
　「―・くてかめない肉」  
　⇔やわらかい  
②  
　㋐物が強い力でぴったりとすきまなく合わさっている。  
　　「―・く扉を閉ざす」  
　　「帯を―・く結ぶ」  
　　「―・い握手を交わす」  
　㋑力を加えても、抵抗があって、滑らかに動かない。  
　　「栓が―・い」  
③（内にあるものが）強くて、外からの力に負けない。しっかりしていて、揺るがない。  
　「―・い信念」  
　「―・い約束」  
　「守りが―・い」  
　「口が―・い」  
④厳格である。きびしい。  
　「―・く禁ずる」  
　「身持ちが―・い」  
⑤  
　㋐確かで、あぶなげがない。信用がおける。手堅い。堅実だ。  
　　「―・い商売」  
　　「当選は―・い」  
　　「予算を―・く見積もる」  
　㋑取引で、相場が一向に下がるようすがない  
　㋒何事もいいかげんにせず、きちんと扱うさま。まじめである。  
　　「―・くて信用のおける人」  
　　「―・い本」  
　　「そう―・ことを言うな」  
⑥自由な感じや、柔らかな感じに欠けたようすをいう。  
　㋐自在な動きができない。融通がきかない。  
　　「からだが―・い」  
　　「頭が―・い」  
　　⇔やわらかい  
　㋑（表現などが）いかめしかったり、こわばったりしていて、すなおに人の気持ちに入ってこない。  
　　「文章がまだ―・い」  
　　「デッサンの線が―・い」  
　㋒鋭くて張りつめた感じを与える。  
　　「―・く乾いた音」  
　　「表情を―・くして事態の推移を見守る」  
　㋓緊張から、気持ちにゆとりがなくなる。言動がぎくしゃくする。  
［補説]漢字の使い分けは「固い」が広く用いられ、「硬い」は物の性質、「堅い」は状態・ようすに用いられることが多い。

（『デジタル大辞泉』　2021年02月閲覧）

　『デジタル大辞泉』の記述によると「かたい」は13個の意味ほど持っている。さらにその中に9個の意味は詳細しすぎる。13個の詳細しすぎの意味の記述は日本語学習者にとって非常に分別しにくく、正しく適用できないと見える。また、『デジタル大辞泉』は「堅い」の表記で記述していることは、学習者は「堅い」の表記は通常表記だと誤解しがちの問題が挙げられる。

　上記した問題に加え、記述の統一の問題が挙げられる。確かに各辞書は細かい解説を記述したり体表的に記述したりしているが、辞書の解説、特に漢字の使い分けが統一ではないことは日本語学習者にとって理解しにくく困難である。また、「かたい」の語の認定、つまり類義語か多義語かは辞書によって異なるため、学習者は「かたい」の語の本質は見えなくなる問題が起きている。

　以上挙げた問題の根源は、辞書の特徴からであると言える。そもそも辞書は著者の主観的な考えで記述されたもので、人によって考え方が異なるのにつれて、辞書の記述も異なっている。一方でコーパスは、

辞書：筆者の主観的考え／コーパス：客観的

辞書Aを書いた人と辞書Bの書いた人の主観的考え方がちゅがう。

本研究では客観的なコーパスを通じて研究する（違う資料・違う方法）

→３にの繋がり

# 2．資料と方法

## 2.1．資料

　本研究では、『現代日本語書き言葉均衡コーパスBCCWJ』（以下BCCWJを代表として記述する）を利用して、コーパスからデータを抽出して分析する。データを抽出には、コーパス検索アプリケーション「中納言」を用いた。

　短単位検索でデータを収集した。

　「かたい」は主に以下の形式で用いられる。

　　１．終止形として使われ、「名詞＋が＋かたい」の形式である。

　　　　（頭がかたい、地面がかたい、等）

　　２．連体形として使われ、「かたい＋名詞」の形式である。

　　　　（かたい表現、かたい口調、等）

　　３．連用形として使われ、「かたく＋動詞」の形式である。

　　　　（かたく信じる、かたく約束する、等）

　形容詞である「かたい」のい活用形を検討して、以下の検索条件を設定した。

１．「名詞＋が＋かたい」

「『キー』　が　品詞　の　大分類　の　名詞」

「（キーから１語後）　語彙素　が　『が』」

「（キーから２語後）　語彙素　が　『固い』」

２．「かたい＋名詞」

「『キー』　が　品詞　の　大分類　の　名詞」

「（キーから１語前）　語彙素　が　『固い』」

　　　　「活用形　が　『連体形』」

３．「かたく＋動詞」

「『キー』　が　品詞　の　大分類　の　動詞」

「（キーから１語前）　語彙素　が　『固い』」

　　　　「活用形　が　『連用形』」

　語彙素で「固い」を検索したため、出た結果には「かたい」は４つの表記を使われるとそれぞれの使用頻度を分かった。

　抽出したデータは、以下の表にい記述した（表1）。

表1：全部のデータ

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 名詞＋が＋ 「かたい」 | 「かたい」＋ 名詞 | 「かたい」＋ 動詞 | 総計 |
| かたい | 35 (10.5%) | 197 (12.3%) | 271 (16.0%) | 503 (13.9%) |
| 固い | 121 (36.5%) | 500 (31.3%) | 755 (44.7%) | 1,376 (38.0%) |
| 硬い | 122 (36.8%) | 581 (36.4%) | 483 (28.6%) | 1,186 (32.8%) |
| 堅い | 54 (16.3%) | 320 (20.0%) | 182 (10.8%) | 556 (15.4%) |
| 牢い | 0 | 0 | 1 (<0.1%) | 1 (<0.1%) |
| 緊い | 0 | 0 | 1 (<0.1%) | 1 (<0.1%) |
| **総計** | **332 (100%)** | **1,598 (100%)** | **1,693 (100%)** | **3,623 (100%)** |

　「名詞＋が＋かたい」の形式については、「固い」は119回、「堅い」は53回、「硬い」は120回、そして「かたい」は33回使われ、合計325件であった。

　「かたい＋名詞」の形式については、「固い」は542回、「堅い」は357回、「硬い」は621回、そして「かたい」は218回使われ、合計1,738件であった。

　「かたく＋動詞」の形式については、「固い」は755回、「堅い」は182回、「硬い」は483回、そして「かたい」は271回使われ、合計1,691件であった。

　ところが、データを詳しく検討すると、いくつかのエラーが混ざったため、修正を行った。具体的には、以下に記述する。

　「かたく＋動詞」の形式のデータには「牢い」の表記が1件（0.06%）,「緊い」の表記が1件（0.06%）入っていた。2件の例を挙げてみる。

（1）支那でも、「生平いまだ女色に近づかざる者あり。陰物はこれ何なる様範なるかを知らず。人に向かってこれを問う。人いわく、すなわち一隻の眼睛を豎に起てるに像たものすなわちこれなり、と。この人牢く記して心にある。一日、嫖興たちまち発す。妓館のいずこにあるかを知らざれば、ついに街頭に向かって間歩す。一眼科の招牌の上に、眼の様を数隻か画き、たまたま横放しにしたるに撞見う。もって、これ必ずや妓家ならんと為う。内に進り、その来意を道うに、医士大いに怒り、叱ってこれを逐う。

（BCCWJ、LBf0\_00006、『南方熊楠コレクション』河出書房新社、1991）[[12]](#footnote-12)

（2）。。。。。。

（BCCWJ、OV1X\_00037、『増補現代俳句大系』角川書店、1982）

　○○のため、この2件を外した。

　「名詞＋が＋かたい」の形式のデータには、以下のようなエラーが混ざっている。

。。。。。。

　このデータの前後文脈を読むと実は「名詞＋が＋[かたい＋名詞]」の形式である。検討している、「名詞＋が＋かたい」の形式として適切ではないため、このようなサンプルを

　このようなデータを合計○○件を外した。

　エラーを全部外し、残したデータは以下となる。

　以上記述したデータを、研究対象とする（表2）。

表2：修正したデータ（研究対象）

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 名詞＋が＋ 「かたい」 | 「かたい」＋ 名詞 | 「かたい」＋ 動詞 | 総計 |
| かたい | 35 (10.5%) | 197 (12.3%) | 271 (16.0%) | 503 (13.9%) |
| 固い | 121 (36.5%) | 500 (31.3%) | 755 (44.7%) | 1,376 (38.0%) |
| 硬い | 122 (36.8%) | 581 (36.4%) | 483 (28.6%) | 1,186 (32.8%) |
| 堅い | 54 (16.3%) | 320 (20.0%) | 182 (10.8%) | 556 (15.4%) |
| **総計** | **332 (100%)** | **1,598 (100%)** | **1,693 (100%)** | **3,621 (100%)** |

## 2.2．方法

　研究方法については、本論文ではコーパスを利用する。コーバスの定義は以下に記述する。

言語のテクスト集合体をコーパス（corpus、複数形corpora）と呼ぶ。一般的には、実際に使用された話しことば・書きことばを、ある言語や言語変種の代表となるように集め、コンピューター上で検索可能にしたものを指す。

（斎藤・田口・西村　2015、p.89）

　コーパスから抽出したデータを分析して、語の表記の使用頻度によって考察する。

# 3．分析と考察

## 3.1．レジスターに基づく分析

　本節では、「かたい」の各表記が使用されているレジスターについて分析する。「かたい」は、「かたい」「固い」「硬い」「堅い」の４つの表記の使用頻度は以下の表３に記述する。

表3：レジスター別の分類

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | かたい | 固い | 硬い | 堅い | **総計** |
| 出版・新聞 | 0 | 7 (25.00%) | 14 (50.00%) | 7 (25.00%) | **28 (100%)** |
| 出版・書籍 | 132 (11.55%) | 410 (35.87%) | 440 (38.50%) | 161 (14.09%) | **1,143 (100%)** |
| 出版・雑誌 | 22 (12.15%) | 47 (25.97%) | 80 (44.20%) | 32 (17.68%) | **181 (100%)** |
| 図書館・書籍 | 222 (16.95%) | 546 (41.68%) | 305 (23.28%) | 237 (18.09%) | **1,310 (100%)** |
| 特定目的・ブログ | 14  (6.28%) | 83 (37.22%) | 84 (37.67%) | 42 (18.83%) | **223 (100%)** |
| 特定目的・ベストセラー | 27 (12.62%) | 121 (56.54%) | 44 (20.56%) | 22 (10.28%) | **214 (100%)** |
| 特定目的・国会会議録 | 28 (93.33%) | 2  (6.67%) | 0 | 0 | **30 (100%)** |
| 特定目的・広報紙 | 1 (1.79%) | 38 (67.86%) | 10 (17.86%) | 7 (12.50%) | **56 (100%)** |
| 特定目的・教科書 | 25 (64.10%) | 4 (10.26%) | 10 (25.64%) | 0 | **39 (100%)** |
| 特定目的・白書 | 0 | 1 (25.00%) | 0 | 3 (75.00%) | **4 (100%)** |
| 特定目的・知恵袋 | 22 (6.16%) | 103 (28.85%) | 190 (53.22%) | 42 (11.76%) | **357 (100%)** |
| 特定目的・韻文 | 10 (27.78%) | 14 (38.89%) | 9 (25.00%) | 3 (8.83%) | **36 (100%)** |
| 総計 | 503 (13.89%) | 1,376 (38.00%) | 1,186 (32.75%) | 556 (15.35%) | **3,621 (100%)** |

　これらのデータを分類した結果をみると、「特定目的・国会会議録」では「かたい」の表記の使用割合が非常に多く、90.48%を占めている。同じく「特定目的・教科書」では「かたい」の使用割合は68.83%である。一方で、「特定目的・広報紙」では「固い」の法が圧倒的に多く、77.78%を占めている。別の角度で見ると、「特定目的・知恵袋」では「硬い」は50.78%を占めていると同時に、「出版・新聞」でもその使用割合は55.56%である。

## 3.2．【かたい】と共起する名詞

　本節では、【かたい】と共起する名詞の分析を行う。

　分析対象については、「名詞　が　かたい」と「かたい　名詞」という2つの使用形式を分析する。

### 3.2.1.「名詞　が　かたい」の形式

　本項では、「かたい」はどのような動詞と共起するかを分析する。まずは、【かたい】と共起する名詞の異なり語数と述べ語数を分析する。分析結果は以下の表4になる。

表4：【かたい】と共起する名詞の分析結果―「名詞　が　かたい」の形式

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 表記 | 異なり語数 | 述べ語数 | 語例 |
| かたい | 27 (15.51%) | 35 (10.53%) | 口(3)、体(3)、バター(2)、目(2) |
| 固い | 57 (32.76%) | 121 (36.45%) | 頭(22)、結束(9)、口(8)、ガード(8) |
| 硬い | 59 (33.91%) | 122 (36.75%) | 体(30)、表情(6)、骨(5)、便(4) |
| 堅い | 31 (17.82%) | 54 (16.27%) | 口(11)、ガード(5)、皮(3)、守り(3) |
| **総計** | **174 (100%)[[13]](#footnote-13)** | **332 (100%)** |  |

　以上の表を見ると、「かたい」と共起する名詞の異なり語数は15.51%で、述べ語数は10.53%で、大きいな差がある。「固い」と共起する名詞の異なり語数は32.76%だが、述べ語数は36.45%で、異なり語数より高い。同じく「硬い」と共起する異なり語数の33.91%は36.75%である述べ語数と比べて低かった。「堅い」では異なり語数は17.82%で、述べ語数は減少し16.27%になる。

　以上の結果を分析してみると、「固い」と「硬い」の表記は多くの名詞と共起し、その使用頻度も高く、広く使用されているということは分かる。一方で「かたい」と「堅い」の表記は他の表記と比べて共起する名詞が半分ぐらい少なく、使用頻度がさらに低い、ということは分かる。

図1：【かたい】と共起する名詞の述べ語数と異なり語数の比較  
―「名詞　が　かたい」の形式

　次は語の分類に基づき分析を行う。まずは、語の分類の「部門」に基づき分析する。「名詞　が　かたい」の使用形式では以下のように名詞の種類が活用されている（表5）。

表5：共起する名詞の意味（部門）の分析結果―「名詞　が　かたい」の形式

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 部門 | かたい | 固い | 硬い | 堅い |
| 主体 |  |  | 1 (0.82%) | 2 (3.70%) |
| 活動 | 2 (5.71%) | 30 (24.79%) | 8 (6.56%) | 18 (33.33%) |
| 生産物 | 7 (20.00%) | 16 (13.22%) | 18 (14.75%) | 5 (9.26%) |
| 自然 | 18 (51.43%) | 62 (51.24%) | 85 (69.67%) | 26 (48.15%) |
| 関係 | 8 (22.86%) | 13 (10.74%) | 10 (8.20%) | 3 (5.56%) |
| **総計** | **35 (100%)** | **121 (100%)** | **122 (100%)** | **54 (100%)** |

　以上の表を見ると、【かたい】は多くの場合に「自然」の名詞と共起している。「かたい」の表記は51.43%の場面に「自然」のめいしと共起している。同じように、この比率は「固い」では51.24%、「硬い」では69.67%、「堅い」では48.15%である。そのほかに、「かたい」の表記は「関係」の名詞（22.86%）と生産物の名詞（20.00%）とも共起する。「固い」の表記はよく「生活」の名詞（24.79%）と共起する。「硬い」の表記の共起する名詞は「自然」の名詞の比率が69.67%、圧倒的に高い。「堅い」の表記よ共起する名詞の中に、半分に近いのは「自然」の名詞だが、「活動」の名詞ともよく共起する（33.33%）。

表6：共起する名詞の意味（中項目）の分析結果―「名詞　が　かたい」の形式

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| *中項目* |  | かたい | 固い | 堅い | 硬い | Grand Total | かたい | 固い | 堅い | 硬い | Grand Total |
|  | 0 |  |  |  |  | 0 |  |  |  |  |  |
| 交わり |  | 1 | 11 | 7 |  | 19 | 2.86% | 9.09% | 12.96% | 0.00% | 5.72% |
| 人物 |  |  |  | 2 | 1 | 3 | 0.00% | 0.00% | 3.70% | 0.82% | 0.90% |
| 住居 |  |  | 2 |  | 5 | 7 | 0.00% | 1.65% | 0.00% | 4.10% | 2.11% |
| 作用 |  | 1 | 10 | 2 | 2 | 15 | 2.86% | 8.26% | 3.70% | 1.64% | 4.52% |
| 天地 |  |  |  | 2 | 1 | 3 | 0.00% | 0.00% | 3.70% | 0.82% | 0.90% |
| 形 |  | 2 |  |  | 1 | 3 | 5.71% | 0.00% | 0.00% | 0.82% | 0.90% |
| 待遇 |  |  |  | 3 |  | 3 | 0.00% | 0.00% | 5.56% | 0.00% | 0.90% |
| 心 |  | 1 | 16 | 6 | 8 | 31 | 2.86% | 13.22% | 11.11% | 6.56% | 9.34% |
| 植物 |  | 2 | 7 | 3 | 6 | 18 | 5.71% | 5.79% | 5.56% | 4.92% | 5.42% |
| 様相 |  | 3 | 1 |  | 2 | 6 | 8.57% | 0.83% | 0.00% | 1.64% | 1.81% |
| 機械 |  |  |  |  | 2 | 2 | 0.00% | 0.00% | 0.00% | 1.64% | 0.60% |
| 物品 |  | 1 |  | 1 |  | 2 | 2.86% | 0.00% | 1.85% | 0.00% | 0.60% |
| 物質 |  |  | 3 | 1 | 4 | 8 | 0.00% | 2.48% | 1.85% | 3.28% | 2.41% |
| 空間 |  | 2 | 2 | 1 | 5 | 10 | 5.71% | 1.65% | 1.85% | 4.10% | 3.01% |
| 自然 |  |  |  |  | 2 | 2 | 0.00% | 0.00% | 0.00% | 1.64% | 0.60% |
| 行為 |  |  |  | 1 |  | 1 | 0.00% | 0.00% | 1.85% | 0.00% | 0.30% |
| 衣料 |  | 2 | 3 |  | 2 | 7 | 5.71% | 2.48% | 0.00% | 1.64% | 2.11% |
| 言語 |  |  | 3 | 1 |  | 4 | 0.00% | 2.48% | 1.85% | 0.00% | 1.20% |
| 資材 |  | 1 | 1 | 3 | 5 | 10 | 2.86% | 0.83% | 5.56% | 4.10% | 3.01% |
| 身体 |  | 16 | 52 | 20 | 72 | 160 | 45.71% | 42.98% | 37.04% | 59.02% | 48.19% |
| 道具 |  | 1 | 2 |  | 1 | 4 | 2.86% | 1.65% | 0.00% | 0.82% | 1.20% |
| 食料 |  | 2 | 8 | 1 | 3 | 14 | 5.71% | 6.61% | 1.85% | 2.46% | 4.22% |
| **Grand Total** | **0** | **35** | **121** | **54** | **122** | **332** | **100.00%** | **100.00%** | **100.00%** | **100.00%** | **100.00%** |

　次は、【かたい】は具体的きどの名詞と共起するかを分析する。共起する名詞上位10位を引き出し、以下の表5で示す。

表7：共起する名詞上位10位―「名詞　が　かたい」の形式

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 順位 | かたい | 固い | 硬い | 堅い |
| 1位 | 口 3 (8.57%) | 頭 22 (18.81%) | 体 30 (24.59%) | 口 11 (20.37%) |
| 2位 | 体 3 (8.57%) | 結束 9 (7.44%) | 表情 6 (4.92%) | ガード 5 (9.26%) |
| 3位 | バター 2 (5.71%) | 口 8 (6.61%) | 骨 5 (4.10%) | 皮 3 (5.56%) |
| 4位 | 目 2 (5.71%) | ガード 8 (6.61%) | 便　　 4 (3.28%) | 守り 3 (5.56%) |
| 5位 | 表面 2 (5.71%) | 体 4 (3.31%) | 皮 4　(3.28%) | 茎 2 (3.70%) |
| 6位 | 頭 2 (5.71%) | 便 4 (3.31%) | 口 3 (2.46%) | 紐 2 (3.70%) |
| 7位 | ガード 1 (2.86%) | 意思 4 (3.31%) | シート 3 (2.46%) | 地盤 2 (3.70%) |
| 8位 | 体制 1 (2.86%) | 決心 4 (3.31%) | 子宮 3 (2.46%) | 手 2 (3.70%) |
| 9位 | 便 1 (2.86%) | 蕾 3 (2.48%) | 筋 3 (2.46%) | 選手 2 (3.70%) |
| 10位 | 固まり 1 (2.86%) | 団結 2 (1.65%) | 関節 3 (2.46%) | 体 1 (1.85%) |

　以上の表を一目で見ると、「名詞　が　かたい」の形式で【かたい】とよく共起する名詞は「口」「体」「頭」、つまり身体部位名詞である。「かたい」の表記はともかく、「固い」の表記は「頭」の名詞の使用割合が高く、18.81%を占めている、「硬い」の表記はよく「体」の名刺と共起し、22.95%まで占め、割合が圧倒的に高い、その次に、「堅い」の表記では「口」の名詞が20.37%を占めている、ということが見える。

　具体的に、例を挙げてみる。「頭　が　固い」は、以下のような場面で使用されている。

（）論議にしても、これは一般論では片付けられそうにない―そんな気がしてならなかった。実際、頭が固いことを自認する財津ですら、セクハラ論議を展開する女性文化人や市民団体の態度というものは、どこか

（LBk9\_00147、『哀しき檸檬色の密室』角川書店、1996）

（）抗議があったらしいですよ。なんかゼンゼン関係ないと思いますが・・・頭が固い人間ばっかりで困りますね。あの災害は大変ショックなのはわかるけど無理矢理ＣＭと結びつけるのはどうでしょうか？？

（OC01\_01667、『Yahoo!知恵袋』Yahoo!、2005）

（）それでも国立病院・診療所に看護師副院長が一人しか誕生していないことは、厚労省の官僚がいかに頭が固いかを如実に示していると思う。　看護師だって副院長をやれる。

（PB54\_00186、『こうしたら病院はよくなった！』中央経済社、2005）

　見ると分かるように、このような場合では、「頭が固い」は慣用句であり、頑固という意味である。

　同じように、「口　が　堅い」も慣用句である。以下の例を挙げられる。

（）プロジェクト参加者は、私たちとかなり親しくなってからでも、セックスの話については口がかたい。とくに私たちを前にして、そのことで言い争うようなことはまずなかった。

（LBj3\_00157、『子供をもつと夫婦に何が起こるか』草思社、1995）

（）二人が結婚に至る経緯に関しては、前出のハフ大佐が著書に詳しく述べている。もっとも、ジーンは口が堅く、余計なお喋りはしないので、二人がいつ結婚するのか、あるいはするつもりなのかさえ、周囲

（LBp2\_00066、『マッカーサー伝説』恒文社21;恒文社(発売)、2001）

（）「でもそれについてはこの男は一言もしゃべらないんだ。なにしろ 口が固くてね。全ては謎に包まれているんだ」「本当？」とハツミさんが僕に訊いた。

（OB3X\_00140、『ノルウェイの森』講談社、1987）

（）これって病気なのでしょうか？一人で悩んでいます知っている人が居たら教えて下さい。子宮ではなく子宮口が硬いのだと思います。経産婦でなければ子宮口は硬く閉じていて細く硬いチューブでなければ入りません。

(OC10\_02785\_3、『Yahoo!知恵袋』Yahoo!、2005）

　このような場合でも「口が固い」は慣用句であり「」いう意味であることは分かる。

　慣用句であることで使用形式が決まっている。具体的に、「頭」は「固い」と共起し、「口」は「堅い」と共起する、ということである。

　しかし、同位1位である「体　が　硬い」は異なる。例文を見てみるとこのようになる。

（）寝起きが多少なりともマシになった。しかし・・・靴下を履くのがメチャメチャ辛い。もともと私は体が硬いので、不便なのだが、それに輪をかけてギックリなので、日常の一つ一つの行動

（OY07\_00164、『Yahoo!ブログ』Yahoo!、2008）

（）陣痛が始まってからしていたという人もいます。上体を前に倒すとき、体が硬い人はきついと感じるかもしれませんが、無理せず、できるところまですればいいでしょう。

（PM21\_00366、『マタニティ』婦人生活社、2002年10月号）

（）左右される部分も大きいが、渡辺とならチャンス十分。ＫＯ決着必至。●池原信遂（３位＝大阪帝拳）体が硬くぎくしゃくしたところはあるが、倒すコツを心得た硬質な右パンチャー。西のＫＯセンセーションの課題はディフェンスの向上

（PM21\_00222、『ワールド・ボクシング』日本スポーツ出版社、2002）

（）ヨガは、一つ一つの動作を丁寧に、きちんとした呼吸に合わせてすることが効果につながるので、体が硬い人にもちゃんと効果は表れます。常

に、おなかの赤ちゃんと相談しながら、無理しないように進めましょう。

（PM21\_00366\_1、『マタニティ』婦人生活社、2002年10月号）

　以上の例を見ると分かるように、「体が硬い」は用句ではない。実際に『日本語の身体慣用句一覧』には「体がかたい」という項目は入っていない。この場合は「体が硬い」はただ、体がかたい、いわば体の状態を表すことだけである。

### 3.2.2.「かたい　名詞」の形式

## 3.3．共起する動詞

### 3.3.1.「かたく　動詞」の形式

# 4．結論

# 参考文献・資料

1. 斎藤　純男・田口　善久・西村　義樹（2015）「コーパス言語学」、『明解言語学辞典』、三省堂、p.89。
2. 沖森　卓也（2014）「異字同訓とは」、宮地　裕・甲斐　睦『日本語学』、明治書院、p.9。
3. 山田　進（2014）「意味から見た異字同訓」、宮地　裕・甲斐　睦『日本語学』、明治書院、p.14-15。
4. 文化審議会国語分科会（2014）「『異字同訓』 の漢字の使い分け例（報告）」、宮地　裕・甲斐　睦『日本語学』、明治書院、p.64。
5. 大野　晋・田中　章夫（1995）『角川必携国語辞典　初版発行』、角川書店、p.237。
6. 市川　孝（2001）『三省堂現代新国語辞典　第十刷発行』、三省堂、p.203。
7. 金田一　春彦（2002）『学研 現代新国語辞典　改訂第三版』、学研研究社、p.224。
8. 小学館『デジタル大辞泉』、2021年02月時点閲覧。
9. 日本国際交流基金（2017）『海外の日本語教育の現状　2015年度日本語教育機関調査より』、p.13。
10. 日本国際交流基金（2020）『海外の日本語教育の現状　2018年度日本語教育機関調査より』、p.15。

国語審議会漢字部会（1972）「『異字同訓』 の漢字の用法」、ｐ.6。

中馬　愛（2019）「ベトナムにおける日本の大学の協力状況・国費留学生・留学生を巡る問題」、ウェブマガン『留学文流　2019年6月号Vol.99』、JASSO、p.50。

# 付録

[表1：全部のデータ 14](#_Toc68375164)

[表2：修正したデータ（研究対象） 16](#_Toc68375165)

[表3：レジスター別の分類 17](#_Toc68375166)

[表4：【かたい】と共起する名詞の分析結果―「名詞　が　かたい」の形式 18](#_Toc68375167)

[表5：共起する名詞上位10位―「名詞　が　かたい」の形式 19](#_Toc68375168)

[表6：共起する名詞の意味（部門）の分析結果―「名詞　が　かたい」の形式 22](#_Toc68375169)

[表7：共起する名詞の意味（中項目）の分析結果―「名詞　が　かたい」の形式 22](#_Toc68375170)

1. 出所：https://www.vn.emb-japan.go.jp/files/000352067.pdf [↑](#footnote-ref-1)
2. 独立行政法人日本学生支援機構とは、日本において、主に学生に対する奨学金事業や留学支援・外国人留学生の就学支援を行う独立行政法人（中期目標管理法人）である。JASSOとも呼ばれる。 [↑](#footnote-ref-2)
3. 出所：中馬　愛（2019）「ベトナムにおける日本の大学の協力状況・国費留学生・留学生を巡る問題」、ウェブマガン『留学文流　2019年6月号Vol.99』、JASSO、p.50。 [↑](#footnote-ref-3)
4. 出所：独立行政法人日本学生支援機構（2020)『2019（令和元）年度外国人留学生在籍状況調査結果』、p.?? [↑](#footnote-ref-4)
5. 出所：日本国際交流基金（2017）『海外の日本語教育の現状　2015年度日本語教育機関調査より』、p.13 [↑](#footnote-ref-5)
6. 出所：日本国際交流基金（2020）『海外の日本語教育の現状　2018年度日本語教育機関調査より』、p.15 [↑](#footnote-ref-6)
7. 出所：http://www.nat-test.com/contents/comparison.html [↑](#footnote-ref-7)
8. 出所：https://www.kanken.or.jp/kanken/outline/degree.html [↑](#footnote-ref-8)
9. 日本語では、そもそも正書法が存在しない。 [↑](#footnote-ref-9)
10. 通用漢字表には、2136字が入っている。 [↑](#footnote-ref-10)
11. 記録047番 [↑](#footnote-ref-11)
12. 用例の出典は、「BCCWJ、[サンプルID]、[出典]、[出版年]」順に記述する。 [↑](#footnote-ref-12)
13. この174は【かたい】の各表記に共起する名詞の異なり語数の総計である。例えば、「体」は「かたい」「固い」「硬い」「堅い」とも共起する。純粋な異なり語数は132である。 [↑](#footnote-ref-13)